

堺エコロジー大学連携 熊野本宮子どもエコツアー

“健全な青少年の育成と環境保全”をテーマに、堺市住民（子ども）×学生×田辺市住民が交流する新しいスタイルの体験学習。小学5～6年生対象のキャンプツアーです。



キャンプツアー（2013年第2回）の様子

活動の概要

目的	「環境モデル都市」である堺市の子どもたちに、自然体験を通じた環境学習の基盤を形成してもらう
連携メンバーおよび役割	大阪府堺市・・・企画、参加者への告知、受付、キャンプへの添乗、予算の管理 和歌山県田辺市・・・企画、活動場所の貸与、キャンプの運営補助 田辺市熊野ツーリズムビューロー・・・旅行に関する業務全般 関西大学人間健康学部教授 村川治彦 / 同学部教授 原田純子 / 同学部准教授 灘英世 / 同学部准教授 安田忠典・・・企画、キャンプリーダー（学生）の養成、キャンプの運営全般、前後の学習指導
活動地域	和歌山県田辺市本宮地区 / 大阪府堺市堺区
活動期間	2016年4月～11月（キャンプ実施は8月25日～8月28日・3泊4日、8月6日プレキャンプ、10月1日振り返りの集い）
費用	学内における各種資金および受益者負担

連携の経緯

2010年の人間健康学部開設の際に、堺市との地域連携を模索するなかで、安田が前頁の「水辺の楽校」の運営委員として参画。そこで「堺エコロジー大学」の事務局と協働したのが契機となって、安田が堺エコロジー大学運営委員に就任。人間健康学部の学生のパワーを生かした堺エコロジー大学のコンテンツとして、2008年度より全学共通科目「野外活動実習」のフィールドとして訪れていた田辺市本宮地区へ子どもたちを誘うツアーを企画・運営するに至った。

解決すべき課題

- 若年者向け自然体験学習機会の不足
- 都市と山村との地域連携・交流の活発化
- 本宮地区の活性化
- 学生に実体験の機会を提供
- 堺エコロジー大学の環境学習プログラムの開発



キャンプツアー（2016年第5回）の様子

大学の役割

「体験学習法」を専攻する人間健康学部のゼミ学生たちが、子どもたちの自然体験を支援するキャンプを企画。活動的な若年者向けの環境教育プログラムを模索していた堺エコロジー大学へ提供。実質的な企画と運営はほぼすべて学生が担当した。キャンプのフィールドとしては、市町村合併以前から堺市と旧本宮町の繋がりがあったことなどから、世界文化遺産として登録されている熊野本宮大社や熊野古道を擁する和歌山県田辺市の協力を得た。

なお、この活動は両都市が2014年5月に友好都市提携を結ぶに至る起爆剤の一つとなった。さらに、2016年には田辺市と関西大学が「大学のふるさと」「企業の森」の2つの協定を締結。同年安田ゼミとして内閣府特命大臣表彰（子供・若者育成支援部門）受賞。

成果

- 子どもたちの成長を支援できた。学生の学びも深い。
- 堺市と田辺市と関西大学の連携の強化（2014年5月、堺市・田辺市友好都市提携締結）（2016年1月、田辺市・関西大学「大学のふるさと」「企業の森」協定を締結）
- 教育旅行等、熊野の新たな観光コンテンツ開発に寄与できた。
- 堺エコロジー大学プログラムの活性化。
- 小5から高校生までを対象とし年数回の活動を実施する「関大・さかいECOベンチャークラブ」へと事業を拡大する計画が立ち上がった。

現場の声

- 参加者の保護者
弟も5年生になったら絶対参加するそうなのでまた再来年よろしくお願ひします！どうかこのプロジェクトが未永く続きますように！
- 堺市役所担当者
参加者倍増、皆地の拠点の復活等、昨年以上にいろいろ要素が加わった難易度の高い事業にも関わらず大成功に終わったのも、皆さんのおかげです。
- 田辺市役所担当者
日中の暑さにも負けず、子どもたちもみんな元気でしたし、何よりも最後まで笑顔を決やさず活動されていた学生さんたちに感謝もうし上げます。

今後の展望

- 堺市、田辺市、関西大学の連携事業としてさらに発展させていくこと
- 「関大・さかいECOベンチャークラブ」を創設し、年8回程度の継続的活動へと拡大する
- 施設を基盤としたさらに多様なプログラムの展開
- 学部、あるいは大学全体での関わり方の模索

研究者の紹介



人間健康学部 准教授
安田 忠典
(やすだ ただのり)

人間健康学部では、レクリエーション、ファシリテーション等のトレーニングをしている明るくユーモアあふれる学生たちが、実際の経験の場を求めています。そんな若い力を求めている現場とコラボできます！